



# 岡山大学理学部

# 同窓会会報

Faculty of Science Okayama University Alumni Association



2018.10  
第7号

【会則】平成24年3月 5日 制定  
平成30年7月25日 改正

(名称) 本会は、岡山大学理学部同窓会(以下、「本会」という。)と称する。  
(目的) 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。  
第2条 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。

(事業) 第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。  
一 総会の開催  
二 会報の発行  
三 会員名簿の管理  
四 その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成) 第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部内に置く。  
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。  
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会) 第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業者に別に組織する同窓会(以下「学科同窓会」という。)と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員) 第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。  
一 正会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生  
二 学生会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学学生  
学生会員は、卒業することにより正会員となる。  
三 特別会員  
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務(室)長として在職した、又は在職する者  
その他、理事会において入会を認めたる者  
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員) 第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員) 第7条 本会に、次の役員をおく。  
一 会長 1名  
二 副会長 1名  
三 理事 若干名  
四 監事 2名

第8条 役員の仕事は次のとおり定める。  
一 会長は、会務を統括する。  
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。  
三 理事は、会長に協力し、会務を執行する。  
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。  
五 理事は、本会の目的達成に必要な役務(総務・会計・広報・名簿管理等)を分担する。  
六 監事は、会計及び会務を監査する。

第9条 役員の出選方法は次のとおり定める。  
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。  
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてることとする。  
三 理事は、学科毎に学科長を各2名程度とし、理事会で選出する。  
四 監事は、理事会で選出する。  
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議) 第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。  
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。  
第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以て組織し、会長がこれを召集する。  
2 理事会の議長は会長又は副会長がたる。  
3 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。  
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。  
二 会務及び業務報告に関する事項。  
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。  
四 その他、役員会において必要と認めたる事項。  
4 理事会は役員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。

第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。  
第14条 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(支部の地域) 第14条 本会の目的を達成するため、理事会の承認を得て、地域ごとに支部を置くことができる。

(支部組織) 第15条 支部は、その地域内の会員をもって組織する。

(支部地域変更) 第16条 支部は、理事会の承認を得て、地域を変更することができる。

(支部の役員) 第17条 支部に役員として、代表幹事1人及び幹事若干人を置く。  
2 支部の役員は、当該支部の会員の中から選出する。  
3 代表幹事は、支部を代表し、支部の会務を執行する。  
4 幹事は、代表幹事を補佐する。

(支部の会則) 第18条 各支部は、当該支部に関する会則を定めることができる。  
2 支部がその会則を定めた場合は、理事会に報告するものとする。

(支部幹事会) 第19条 各支部はそれぞれ支部幹事会を置き、代表幹事及び幹事をもって構成する。  
2 支部幹事会は、必要に応じ、代表幹事が招集し、代表幹事がその議長となる。  
3 支部幹事会は、支部の運営に関する事項を協議する。

(支部の経費) 第20条 支部の経費は、当該支部所属会員の負担とする。  
2 本会は、支部に補助金を交付することができる。

(会計) 第21条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。  
第22条 本会の会費は次のとおり定める。  
一 正会員は、入会金(終身会費)5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。  
二 学生会員は、入会金(終身会費)5,000円を入学時に納付するものとする。  
三 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。  
四 会費の納付方法については、別に定める。

第23条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。  
第24条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。  
第25条 監事は、毎年本会の会計を監査する。  
第26条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時公開しなければならない。  
第27条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(雑則) 第28条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。  
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則) 1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。  
2 この会則は、平成24年3月卒業生から適用する。  
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。

(附則) 1 この会則は、平成30年7月25日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

岡山大学理学部同窓会 別表				
名称	地域名	設立年月日	代表者	連絡先
岡山大学理学部同窓会	本部	平成24年3月5日	会長 本水 昌二	理学部事務局 086-251-7764
岡山大学理学部同窓会 関東支部	関東地区 (東京、千葉、神奈川、埼玉、 栃木、群馬、及びその周辺)	平成30年4月1日	代表幹事 米森 重明	米森 重明 090-5330-2391

## 岡山大学理学部同窓会役員名簿

平成30年4月1日現在

役員	氏名	所属等
会長	本水 昌二	名誉教授
副会長	吉野 雄二	理学部長(教授)
理事	石川 雅雄	数学科長(教授)
理事	池畑 秀一	名誉教授
理事	野上 由夫	物理学科長(教授)
理事	味野 道信	グローバル人材育成院教授
理事	金田 隆	化学科長(教授)
理事	岡本 秀毅	化学科准教授
理事	川本 平山	全学同窓会理事(化学科)
理事	高橋 卓	生物学科長(教授)
理事	西村 美保	生物学科助教
理事	竹中 博士	地球科学科長(教授)
理事	野坂 俊夫	地球科学科准教授
理事	横谷 尚睦	附属界面科学研究施設長
監事	市岡 優典	副学部長(教授)
監事	西原 康師	副学部長(教授)

## 平成29年度 岡山大学理学部同窓会会計報告

収 入		支 出		
摘 要	金 額	摘 要	金 額	
1 前年度繰越	1,831,955	1 事業費	153,200	
		(1) 同窓会	18,000	
		歓迎会参加費4名	8,000	
		国際交流懇親会2名	10,000	
2 会費	654,920	(2) 会報作成	1,000部	124,200
一般学生(Alumni)	650,000	(3) 就職セミナー講師謝金	2名	11,000
@5,000×130名				
卒業生(振込)	5,000			
@5,000×1名				
振込手数料	△80	2 事務費	127,618	
		(1) 通信運搬費	83,058	
		メール便(同窓会報744件)	56,544	
		メール便(Alumni会報296件)	22,496	
		郵券代(同窓会ご案内744件)	4,018	
		(2) 事務用消耗品費	45,560	
		名入れ封筒2,000枚	43,200	
		消耗品	1,360	
3 預金利息	18	3 繰越金	2,206,075	
		(1) 普通預金	2,190,595	
		(2) 小口預金	15,480	
合 計	2,486,893	合 計	2,486,893	

## ■編集後記(岡山大学Alumniニュースをチェックしよう!)

岡山県は今夏、未曾有の大災害に見舞われました。被災された同窓生の皆さんに衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をご祈念致します。

理学部同窓会では、今年度に嬉しい出来事が二件ありました。「理学部同窓会関東支部設立」初代代表幹事 米森重明氏(化学科 昭和51年卒)と「岡山大学 Alumni(全学同窓会)東海支部設立」初代代表幹事 尾原博明氏(数学科 昭和38年卒)の誕生です。これを契機として関東圏、東海圏在住の皆さんがそれぞれの地域で同窓会を通じて充実した親睦と友情の機会が得られることを願っています。

岡山大学 Alumni(全学同窓会) 理事 川本平山

## お問い合わせ先

岡山大学理学部同窓会事務局  
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内  
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777  
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp  
<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>



## 同窓生の絆：たていと・よこいとの絡み

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

岡山大学Alumni(全学同窓会)及び理学部同窓会は、ともに発足7年目を迎えました。これまで主にホームカミングデーや同窓会などとおして、会員同士の交流を深めてまいりましたが、本年4月1日、「理学部同窓会関東支部」が正式に発足し、関東圏ではより密な同窓会活動が期待されています。7月には、Alumni東京支部、各学部支部と合同で同窓会が開催され、理学部関東支部も参加いたしました。理学部・第一号支部は、関東圏在住の同窓生の方々の多大なるご尽力により発足できました。各位に感謝申し上げます(本会報中の記事、理学部ホームページも併せてご覧ください)。

会員諸氏におかれましては、既に同期の方々との同窓会(同期会)やメール・電話等で情報交換されていることでしょう。このネットワークを緯糸とすれば、これに先輩、後輩の経糸を絡み合わせることで、人的ネットワークは格段に広がり、さまざまな有用な情報量も大幅に増すことが期待できます。全国各地でご活躍の皆様には、それぞれの地で第二、第三・・・の支部設立による強固な経糸を通していただき、同窓会活動の一層の盛り上げをお願い申し上げます。

最後に、理学部同窓会のますますの発展に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

## 同窓会に寄せて

岡山大学理学部同窓会は2012年3月に設立され、皆様方のご協力によりその機能も順次充実してまいりました。

理学部は、1949年の創設より発展を続け、現在では5学科を擁し、入学定員は140名、第三年次編入生を含めると収容定員600名の学部で成長してきました。附属施設として臨海実験所、界面科学研究施設が設置されています。また、理学部の教員を中心に2016年度に発足した異分野基礎科学研究所においては、光合成研究をはじめ超伝導素材、量子宇宙研究など世界をリードする研究が理学部との共同のもとで進行しています。

世の中のグローバル化の波に乗り各大学でも多くの改革が実施されています。岡山大学では2016年度から、それまでの90分授業・2学期制から60分授業・4学期制への移行が実施されました。それに応じて理学部でもカリキュラムの再編等が行われ、授業の様子も大きく様変わりしました。しかしながら、理学部が科学の基礎研究と教育の中心であるという自負を持って教員一同励んでいくという姿勢は何時も変わることはありません。

今日のこのような理学部の発展は、岡山大学理学部や大学院において研究を積み上げてこられた卒業生の皆様のご努力や実績によるものと感謝いたしております。理学部卒業生の皆様が本同窓会のもとで交流や情報交換によって一層の親睦が深められ、皆様と同窓会が益々発展されることを心よりお祈りいたしますと同時に、今後とも理学部に対して温かいご支援・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

## ▼活動報告

2018.10.20	理学部同窓会を開催	2015.9.2	理事会開催
2018.7.28	岡山大学 Alumni(全学同窓会)東京支部、各学部支部と合同総会・交流会	2014.11.20	理事会開催
2018.7.25	理事会開催	2014.10.18	理学部同窓会を開催
2018.4.1	理学部同窓会関東支部設立	2014.8.21	理事会開催
2017.10.21	理学部同窓会を開催	2013.10.19	理学部同窓会を開催
2017.7.26	理事会開催	2013.9.4	理事会開催
2016.10.22	理学部同窓会を開催	2013.3.6	理事会開催
2016.9.7	理事会開催	2012.10.20	設立記念総会並びに懇親会開催
2015.10.17	理学部同窓会を開催	2012.7.4	理事会開催
		2012.5.25	ホームページを公開
		2012.3.5	岡山大学理学部同窓会設立



岡山大学理学部同窓会 会長  
(昭和43年大学院修士課程修了)  
本水 昌二



岡山大学理学部長  
吉野 雄二

## 「理学部同窓会関東支部設立によせて」



全学同窓会東京支部が結成されてから理学部出身者として活動してきました。本年4月に同窓生が集まり理学部同窓会関東支部が設立されました。これを機会に関東地域の第1期の卒業生から、これから関東に就職される在学学生までを含めて全学科での交流の場を築いて参りたいと思っております。気楽にご参加ください。

岡山大学理学部同窓会関東支部  
代表幹事 米森 重明



# 各学科近況報告

## 数学科 Department of Mathematics



数学科では、まず最初を書くべきことは昨年11月の秋の叙勲において三村 護 名誉教授が瑞宝中級章を受章されたことです。たいへん名誉なことであり、岡山大学の数学科の長い伝統が感じられます。また人事面においては、昨年度の学科長でありました河備 浩司 教授が今年の3月末日をもって退職し、慶應義塾大学経済学部へ転出されました。島川和久 教授は、今年度も引き続き特任教授として理学部の教育活動に携わっておられます。一方で、3月1日付けで、門田 直之 准教授、9月1日付けで上原 崇人 准教授が着任されました。門田准教授は低次元位相幾何学、4次元多様体が主な専門分野であり、上原准教授は複素曲面上の力学形理論が主な専門分野です。また、上原准教授は日本アクトゥアリー会（準会員）の資格も持っており、今後の学生の新たな就職先の開拓に役立ててもらえるでしょう。新しい先生方を迎えて数学科はさらに発展していくものと存じます。

また、研究面においても昨年に引き続き岡山大学において研究集会・集中講義・談話会等が活発に開催されております。中でも3月には国際集会 Algebraic and Enumerative Combinatorics in Okayama が7人の外国人招待講演者を招いて行われました。さらに2018年9月24日から27日に、日本数学会秋季総合分科会が岡山大学で盛大に催されました。

数学科長 石川雅雄



## 物理学科 Department of Physics



今年度物理学科は、約40名の新入生と3年次編入生を迎え、ほぼ同数の卒業生を送り出しました。また30名弱の修士課程の学生が社会に巣立っています。就職状況は今年も良好で優良企業に多く就職しています。教員では、大成先生が名古屋大学理学研究科に移籍され、東京大学から秋葉先生が着任されました。

近年設置された異分野基礎科学研究所でも物理系教員の活動が活発です。吉村太彦 特任教授(量子宇宙物理学)、笹尾登 特任教授(極限量子物理学)、秋光純 特任教授(量子電子物理学)を始め世界的に著名な方々もおられます。またHarald O. Jeschke 教授は、英語を用いた研究・教育を担当されています。この様に物理学科の活動は年々活性化しています。

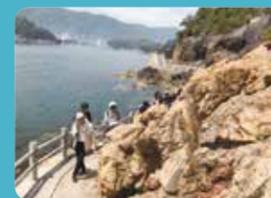
物理学科長 野上 由夫



岐阜県の神岡鉱山地下1000mに建設されたスーパーカミオカンデでは高さ40m直径40mの水タンクに5万トンの超純水が満たされ、直径50cmの光センサー約13,000本により宇宙からの信号を捉えます。これは、ニュートリノの性質解明に向けて、世界を牽引している実験です。2018年8月に12年ぶりにタンクが開かれ、検出感度向上のために改修が始まっています。私は新たなシミュレーション開発を主導しており、宇宙・素粒子物理学での更なる発見を目指して研究を行っています。

萩原 開人 (平成27年3月 岡山大学理学部物理学科卒業)  
現在 自然科学研究科数理物理学専攻物理学講座博士後期課程二年

## 地球科学科 Department of Earth Sciences



平成29年度は28名の学部生が卒業し、17名の修士学生が修了、1名の博士課程学生が博士の学位を取得しました。教員は、千葉 仁教授がこの3月末を以って退職されました。現在は特命教授として引き続き岡山大学の教育活動に携わってくださっています。

現在の陣容は、千葉先生を除くと教員総数13名、技術専門職員1名、事務補佐員1名となりました。今年度はこのメンバーで充実した教育と優れた研究成果を目指して努力してまいります。

今年度も恒例の恒例の新入生学外研修が、4月に一泊二日の日程で1年次担任の青木教授をはじめとする引率の下でありました。1日目は広島県地方気象台の見学、2014年8月の広島土砂災害場所の視察、2日目は福山市鞆の浦の千仙酔島の遊歩道沿いの海食地形や岩石の観察(写真)と広島県歴史博物館「ふくやま草戸千軒ミュージアム」の見学と盛り沢山の内容でした。広島県地方気象台では学科のOBが気象台業務の内容の説明や案内をしてくださいました。

また、最近とても嬉しいニュースもありました。5月に千葉の幕張でありました日本地球惑星科学連合2018年大会で、鈴木教授の研究室の竹末勤人君(D3)と竹中教授の研究室の秦 真平君(M2)のふたりが、学生優秀発表賞を受賞しました。竹末君は固体地球科学セクション、秦君は地球人間圏科学セクションでの受賞です。ふたりには、8月に日本地球惑星科学連合から賞状と立派なガラスの盾が送られました。ふたりの受賞が、他の学生達にも励みとなり、自信に繋がっていくことを期待します。最後に、同窓生の皆様のご活躍とご健康を祈念いたします。今後とも地球科学科に対するご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

地球科学科長 竹中博士





**秦 真平**  
平成29年 地球科学科卒業

**"Stay hungry, Stay foolish."**

私は、平成25年4月に岡山大学理学部地球科学科に入学し、平成29年4月から同大学の大学院自然科学研究科地球科学専攻へと進学しました。現在は修士課程の2回生で、津波のシミュレーションに関する研究をしています。もともと地球科学科へ入学した理由は竜巻(渦)の研究に携わりたいと考えていたためでした。しかし、最終的に配属された研究室は地震の研究室で、それも「渦なし」場における津波の研究に取り組んでいるのですから、人生どうなるか分かりませんね(笑)。研究では、自分の未熟さを嫌というほど思い知らされることになりました。常にパソコンの画面とにらめっこし、繰り返されるエラーとの闘いでした。試行錯誤の末、ようやく正しい結果が出た時には言葉では言い表せないほどの充足感と達成感がありました。その努力が実り、今年の5月に開催された日本地球惑星科学連合2018年大会では見事、学生優秀発表賞を受賞することが出来ました。また、今年の10月には秋季地震学会、12月にはアメリカで行われる国際学会への参加が決まっています。短い大学院生活の中でこれほどまでに貴重な経験ができる、そしてできたのもひとえに指導教官の竹中博士教授の手厚いご指導のおかげです。感謝の言葉しかありません。しかし、もちろんこれがゴールではありません。来年からは社会人。教育関係の企業に内定を頂いています。研究を通して学んだ自分の未熟さ、愚かさを自覚し、常に満たされない向上心を持つことで、これからもたゆまぬ努力を続けて行きたいと思っています。

## 化学科 Department of Chemistry



今年度は、化学科および異分野基礎科学研究所の化学系教員23名(兼任教員を含む)が、学部生、大学院生の研究教育を担当しております。平成29年度は32名の学部生が卒業、20名の修士学生が修了し、2名の博士課程学生が博士の学位を取得しました。平成30年3月には、無機化学研究室の黒田泰重教授が定年されましたが、今年度も特任教授として引き続きご活躍いただいております。また、スイス、ジュネーブ大学で1年5ヶ月間、研究されていた江口律子助教が2月に帰国され、今後の活躍が期待されます。

化学科の教員、学生は、物理化学、有機化学、無機・分析化学を基盤とした第一線の研究に活発に取り組んでいます。化学科では、今後も世界で活躍できる人材の育成を目指し、教育・研究活動を推進していきます。最後に、同窓生の皆様のご活躍を祈念いたします。今後とも化学科に対するご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

化学科長 金田 隆



私は、学部4年と博士前期課程の3年間、分析化学研究室に在籍していました。現在は地元の株式会社日立金属安来製作所(特殊鋼の各種製造工程を請け負う企業)で技術員として働いています。工場内の品質保証センターで原料や製品の成分分析を行い、それらがどのような元素で構成されているのか、不純物が含有していないか等を調査しています。分析装置の原理や構造を理解していなければならないため、在学中に学んだ知識や考え方がとても役立っています。この仕事を通じて社会に高品質な製品を届けることが出来るよう、日々努めたいと思っています。

磯山美華 (博士前期課程 2018年修了)



## 生物学科 Department of Biology



昨年11月に中越英樹先生が教授に昇任しました。年度末に高橋純夫教授が定年退職され、現在の教職員は、教授8名、准教授8名、WTTを含む助教4名、事務担当職員1名です。ただし、

高橋純夫先生には非常勤として一部講義を担当していただいています。今年度の新入生は32名、3年次編入生は6名でした。新入生研修は、日帰りで行きました。また、昨年設立された中原教育研究基金により、2回目の野外実習が4月に高梁市で行われた一方、本年度大学院に進学した学生の中から卒業研究が優秀だった3名を選び、奨学金を支給いたしました。数年前に導入した3年次後期(第3学期)からの研究室配属は大分定着し、卒業課題研究の内容にも効果が現れていると思われます。今年度から短い口頭発表も導入する予定です。3年目の60分授業4学期制は、実質午後1時過ぎからの昼休みに教職員も学生もいまだ戸惑っている印象があります。人員凍結や削減、運営費交付金の減額など厳しい状況が続く中、生物学科は教職員一丸となって今後も優れた教育・研究成果を社会に発信できるよう努力して参ります。ご支援の程、宜しくお願ひ致します。

生物学科長 高橋 卓



## 附属臨海実験所 Marine Laboratory



附属臨海実験所では本学生物学科、他大学、高等学校等を対象に多くの臨海実習を行います。野外での活動が多いため、天候の影響を受けることも致し方ないことです。今年7月上旬の大雨は災害としても大変なものでしたが、牛窓周辺では海の中も塩分低下の打撃か、磯の動物相がこれまでになく貧弱になってしまったようです。今年の臨海実習3、公開臨海実習ではアカエイ(軟骨魚類)の解剖が行われましたが、公開臨海では大きく膨らんだ母親の子宮から立派な赤ん坊(写真)が多数あらわれてすぐに泳ぎだし、皆を驚かせました。研究面では、文部科学省認定共同利用拠点としてハワイ大学、東京大学等との共同研究も順調に行なわれています。

所長 坂本竜哉



## 附属界面科学研究施設 Laboratory for Surface Science



気体と液体、液体と固体など異なる物質同士が接触する境界面を界面(表面)と呼びます。普段は余り使わない言葉かもしれませんが、石鹸などの洗剤があぶらになじみやすい部分と水になじみやすい部分を併せ持つ分子(界面活性剤)を主成分として含むことを考えると、我々の生活にも密接に関連していることが想像できると思います。界面(表面)における原子、分子の配列は物質内部(バルク)とは異なっているため、界面に特有の性質が発現します。そのため、界面(表面)においてバルクとは異なる特性の探索が活発に行われています。附属界面科学研究施設では、人間の生活に役立つ特性を示す物質の開発を目指し、物理系と化学系の教員がそれぞれの専門分野の研究を展開してきました。また、広島大学放射光科学研究センターに設置された岡山大学ビームライン(上図)を活用し教育研究を行ってきました。界面(表面)を利用した新たなデバイス開発や超伝導(ある種の物質の電気抵抗が、その物質に特有な温度(超伝導転移温度)以下でゼロになる現象)を示す新物質開発と超伝導機構の解明を目指して活発な研究が行われています。

施設長 横谷尚睦



## 異分野基礎科学研究所 Research Institute for Interdisciplinary Science



異分野基礎科学研究所は、2016年4月に発足した新しい研究所で、基礎物理学から生物科学という異なる分野の研究者が協力し、異分野間の交流を通じて基礎科学の新しい研究分野を切り開くことを目指しています。研究所は、国際的な視点で研究活動を行うことを重要な指針としており、本年8月には、新たにシンガポールの分子・細胞生物学研究所からRobert C. Robinson博士が特任教授として着任されて、進化・構造生物学研究分野が発足しました。これで、外国人特任教授の主導する研究グループが2つになりました。また、本年5月には国立大学附置研究所・センター会議にも所属することができました。今後、世界的な研究拠点になることを目指して所員一同頑張ります。

所長 久保園芳博

